

## 17. ボストン福島シャトル便

日本に到着して、今は国内移動中です。シャトル便も最終回、と思ったのですが、日本医師会での報告会が今月、武見国際保健プログラム 30 周年記念事業が 10 月にボストンで、11 月に日本でと予定されているので、留学の振返りをかねて一人シャトル便を年内は続けます。10 月はボストンで同期の武見フェローと発表します！日本とアフリカのケースを比較して、地域レベルのヘルス・ガバナンスについて検討する研究です。15 年前の留学と同様、沢山のお友達ができたのが大きな成果でした。

武見国際保健プログラムの修了式は大学の卒業式の時期に合わせて 6 月でした。仕事がたっぷり残っている段階だったので、前回のシャトル便に書く気分にならなくて、今回ご報告になりました。写真は、Frenk 学長と Reich 教授との写真です。軽食もする 2 時間かけての式で、お世話になった先生方にご挨拶して一つの区切りになりました。修了式から 1 か月間は、今回の留学で何を学んだかを考えました。シャトル第 1 便で書いた留学の目的は、①母子保健の研究に専念すること、②教え方を学ぶこと、③論文の書き方とその教え方を学ぶこと、そして、④効果的な発表の仕方、コミュニケーションの仕方を学ぶことでした。全て達成できた上に、新しい研究分野も開拓できました。でも、それで自分が大きく変わったかというところでもない気がします。1 つ心残りは、自分の専門とは全く違うことに取り組む時間が取れなかったということです。新しいことへのチャレンジを続けたいと思います。



BOSTON



子どもは新しいことにチャレンジしました。泳ぐのが怖かったのに、6月は水泳強化月間にすることに合意して、個人インストラクターのレッスンを受けました。MITのプールにチャールズ川の橋を歩いて通ったのは留学一番の思い出の1つです。MITはある程度泳げないと卒業できないという規定があるのです。



上記まで書いて福島につきました。今は福島市の自宅で衣食住の整備です。荷物が到着する前に、古いものを捨てまくっています。子どもが福島に到着して翌朝起きてすぐに「新しい生活のはじまりだ!」といいました。中途半端ですが、皆様またよろしく願いいたします。



後藤先生  
お帰りなさい

